

8 月 31 日

【火 曜 日】

© 日刊食料新聞 2004 年

日刊 (土日・祭日・休市日休刊)

# 日刊食料新聞

<http://www.nikkan-s.co.jp/>

## 全国生鮮流通

### フォーラムから

《 2 》

消費者が求める「安心」の前提となるものが

リスク評価・リスク管理を行うことで維持される「安全」だ。生産段階、

輸送過程など流通のあらゆる段階で食品汚染の起

こる可能性があることを

考えると、重要になるの

がトレーサビリティシ

ステムだが、何らかの問

題が起きた場合、原因究

明のためには流通経路履

歴に加え、生産履歴、G

AP (適性農業規範)、

輸送管理履歴、加工履

歴 (HACCP)、輸送

履歴、陳列履歴などの安

全履歴が不可欠となる。

これらの膨大な情報を管理するために、またこれらの情報を効率良く利用できることから、IT

化が進むだろう。

また、IT化が進むこ

る。つまりコンピュータ

ター導入に失敗した企業のサプライチェーンからの排除が行なわれるだろう。

また、IT化が進むこ

## 市場は情報ステーション担う

千葉大学大学院自然科学研究科教授 松田友義

ITが進展することで

これまで統合されていた

各要素がバラバラにさ

れ、要素毎の優位性が問

題となる。そして新たな

企業間の関係が構築され

とで、流通の形態自体に

も変化が起る。

これまでの市場の機能

としては、大量の「モノ

」を集荷する機能があ

るが、IT化がすすみ、

そうした場合に市場が

果たす機能として考えら

れることは、現物を基に

した卸売の生産地の代表

としての機能ではなく、

情報を基にした調達代

取引や交渉がネットワーク上でされるようになる、必ずしも1カ所にモノを集める必要はなくなってくる。更に、品種の差別化が進み、多品種少量生産の体制が主流となってくる、1カ所に集荷するよりも、生産者と小売業者が個々に直接取引したほうが効率的な場合が多い。

また、小規模の地方市場は地域と共生することによって生き残りを図るのも1つの方法だろう。確立された産地ブランドの販売を促進する機関としての役割である。

これまでの、「もの」を中心とした規模の優位性から、情報の優位性へと、シフトしていく中で、それに見合った対応が求められるだろう。

(つづ)